

---

# 歯車戦争

勝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

歯車戦争

### 【著者名】

勝

【Zマーク】

Z9687

### 【あらすじ】

60年という月日が戦争に使われて来た兵士の運命を変える。

## 七年後のアマゾン

### 第一話 七年後のアマゾン

アメリカ合衆国 アラスカ州 1972年

ここは一年中寒い・・・アラスカというのはロシア（ソ連）がロシア帝国だったころアメリカが格安で買い取ったものだ。

そんなアラスカに一機のヘリが飛んで来る。そして一人の兵士が家に入つて行つた。

#### アマゾン上空

「はあー。どうして俺なんだ？俺はもうラ・シーア（CIA）じゃあないんだぞ」一人の男が愚痴つた。この男の名前はアイリー・ホーク

だ。七年前にも潜入任務を見事こなし伝説の傭兵とうたわれる兵士だ。元CIA諜報員だ。

「俺はアラスカで平和に暮らしていたのに・・・」さらに愚痴つた。それを止める様に大佐が言つた。

「俺とお前はなかなか良いコンビだったのに。俺はお前の大佐だぞ」笑いながら言つた。

「元大佐だ」怒鳴りながら言つた。そしてホークは話を続けた。

「それで俺に何のようだ？」まじめにホークが言うと大佐も顔を曇らせた。そして大佐は静かに口を開け状況を話始めた。それは後に全世界を揺るがす事態になつてしまふことだと聞き、ホークは言つた。「どういう意味だ？」ホークは顔をしかめ言つた。

「実はアマゾンに行つてもらいたい」

「またかよ・・・」そう七年前の任務もアマゾンだった。

「このマークを見てくれ」そのマークには「I.S.F」と書かれていた・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9687/>

---

歯車戦争

2010年10月10日20時50分発行